

令和元年6月11日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13169

研究課題名(和文) 聖地オリュンピア - 戦闘行為の抑止への宗教および視覚芸術の関与

研究課題名(英文) Olympia. Did Ancient Religion Act as Deterrent?

研究代表者

長田 年弘 (Osada, Toshihiro)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：10294472

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：古代ギリシアの代表的な聖域であったオリュンピアの運営主体に、都市国家間の抗争を抑制するいわゆるパンヘレニズムの明確な概念が存在していた否かを検討した。近年の歴史学はしばしば否定的に言及するが、本研究は、聖域への奉納物、および主神ゼウスを表現する神話図像に関して調査し、こうした見解に対して問題提起を行った。ギリシア民族同士の戦闘を忌避ないし調停する要素が、ゼウス信仰に胚胎していた可能性について、芸術の検討を通じて検証を試みた。戦勝記念彫像、仲介者ゼウスの図像等において研究を進め、オリュンピア聖域において「平和の祭典」の性格付けがなされた可能性について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代オリンピック開催時に課された、休戦等の禁忌については、主に宗教史の分野において論じられ、一方、ゼウス図像に関しては美術史学の分野においてのみ論じられてきた。本研究による、ゼウス図像の分析結果に見られるように、古代ギリシアのゼウス信仰には、族長神ゼウスの特殊な性格を指摘することができる。本課題は、これらオリュンピア聖域に関わる事例に着目し、宗教と美術の社会的影響力について考察した。古代ギリシアの「休戦使節」は、近代的な意味での平和を目標とするものではなかったが、そうした歴史的限界を認めつつも、宗教と視覚芸術が平和の勧告という社会的役割を果たした可能性のある事例を取り上げた。

研究成果の概要(英文)：The project investigated the role of the sanctuary Olympia. It has been long discussed whether it acted as deterrent against War, or not. The theories by the recent historians tend to deny the role of the sanctuary as a means of making peace between poleis. It seems, however, that the study of the iconography of visual art and dedicated monument let us reexamine the problem. The cult of Zeus could have in fact acted as a "festival of Peace". The project reflected on the possibility whether ancient religion and dedicated monument participated in acting as deterrent.

研究分野：美術史

キーワード：ギリシア彫刻 ギリシア美術 オリンピック ギリシア神話 ギリシア宗教 ギリシア絵画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

古代オリンピックの開催に際しては、ギリシアの都市国家を使節が巡り、主神ゼウスのための祭典を告げると共に、交戦中の都市国家に対して一時的な休戦を求めたことが知られている。しかし、こうした休戦(エケケイリア)の解釈を巡っては論争がある。選手団の派遣と交通を容易にし、祭典の開催を可能にするための実際的な措置にすぎなかったと見なすのが近年の歴史学の傾向とされている(Parker 1983,156; Prichard 2013, 24; 師尾 2004)。

2. 研究の目的

古代オリンピックの開催時に課された、休戦等の禁忌については、主に宗教史の分野において美術史とは切り離されて論じられてきた。一方、戦勝記念彫像とトロパイオン建立に関しては、美術史ないし考古学において研究が進められ、ゼウス図像に関しては、美術史のみにおいて論じられてきた。しかし、これら複数の学問領域において、別個に論じられてきた現象は実際にはゼウス信仰を共通の背景としており、族長神ゼウスの特殊な性格が、様々な領域において形を変えて顕在化していた可能性が高い。本課題においては、これらオリュンピア聖域に関わる事例に着目し、宗教と美術の社会的影響力について考察する。

古代ギリシアにおける「休戦使節」は、確かに、同一民族内における和平の試みに過ぎず、他民族との融和など、近代的な意味での国際平和を目標とするものではなかった。しかし、そのような歴史的限界を認めつつも、宗教と視覚芸術が、平和の勧告という社会的役割を果たした事例を明確に定義し、ゼウス信仰における未解明の側面に光を当てることを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

無論、近代のスローガンである「平和の祭典」とは大きく異なることを確認した上で、それでもなお、オリュンピア聖域とゼウス崇拝において、宗教と美術が民族同士の闘争を抑制するべく機能したと思われる事例が、管見では2点見られる。以下について本研究では着目する。

(1)一般に古代ギリシアでは、聖域に戦勝記念彫像を奉納する習慣があった。こうした記念彫像の碑文は、オリュンピアにおいては、ギリシア民族同士の戦闘を明示しないように配慮されていたとする研究がある。本課題においては、主に前6世紀と前5世紀の奉納彫像を調査して検証する。作例は、オリュンピア聖域に加えて、デルフォイ聖域を取り上げ、比較対照する。

(2)前6世紀と前5世紀の神話図像における、「闘争を仲裁するゼウス神」のイメージを分析する。

4. 研究成果

(1)F. Felten 1982によれば、古代ギリシアの代表的な二つの聖域である、デルフォイとオリュンピアにおける戦勝記念彫像を比較すると、その碑文には明らかな相違が見られる。すなわち、前5世紀と前4世紀のデルフォイにおける奉納記念物の台座碑文は、奉納者である戦勝国の名前と同時に敗戦国の名前も明示するが、オリュンピアにおける台座碑文は、奉納者の名前のみを刻み、戦闘の敵であった敗戦国に関しては言明を避ける傾向があるとされる。(Rups 1991も同意見。ただしM. Scott 2010は批判。)

(2)ゼウス神は、神殿の装飾彫刻や陶器画等の神話図像において、争いの仲裁者、調停者として表されることがある。こうした役割の下に表現されるのは、ギリシア12神の中でもゼウスのみであるが、研究史において言及されることが少ない(H. Lloyd-Jones 1971, Ch. Sourvinou-Inwood 2003, K. Dowden 2007, Osada 2008, J. Larson 2007)。美術史の図像分析によって、戦闘を抑制する神という一面を指摘できた。三つの主題、「アキレウスとメムノンの一騎打ち」、「アポロンとヘラクレスの鼎争い」、「アレスとキュクノスの争い」に、ゼウスは調停者として表現される。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

長田年弘: 古代ギリシアの動物犠牲について, 地中海学会月報 415, 2018, 4. (査読無)

<http://www.collegium-mediterr.org/report/2018%E5%B9%B412%E6%9C%88%E5%8F%B7%E7%BC%8C415%E5%8F%B7/>

Toshihiro Osada: Eine neue Interpretationsmöglichkeit des Parthenonfrieses, in: G. Schoerner et K. Meinecke (eds.), *Akten des 16. Oesterreichischen Archaeologentages am Institut fuer Klassische Archaeologie der Universitaet Wien vom 25. bis 27. Februar 2016*, Vienna; Phoibos Verlag, 2018, 361-5. (査読有) ISBN

978-3-85161-182-3.

長田年弘：礼拝空間 - 超越者と対峙する場の創造 シンポジウム 趣旨説明, 藝叢, 32, 筑波大学人間総合科学研究科芸術学研究室, 2017, 3-8. (査読無) ISSN 0289-4084.

Toshihiro Osada: Unsichtbare Goetter. Darstellung der Intervention der Gottheit in fruehklassischer Zeit, G. Grabherr and B. Kainrath (eds.), *Akten des 15. Oesterreichischen Archaeologentages in Innsbruck. 27. Februar-1. Maerz 2014. IKARUS*. Innsbrucker Klassisch-Archaeologische Universitaetsschriften Bd. 9, Innsbruck University Press; Innsbruck, 2016, 275-284. (査読有) ISBN: 978-3-902936-99-8.

Toshihiro Osada: The Parthenon Frieze. Display of Piety and Privilege, in: T. Osada (ed.), *The Parthenon Frieze. Ritual Communication between the Goddess and the Polis. Parthenon Project Japan 2011-2014*, Vienna: Phoibos Verlag, 2016, 11-30. (査読無) ISBN: 978-3-85161-124-3.

Toshihiro Osada: The Parthenon Frieze as a Representation of Beneficiaries, *Archaeological Institute of America 117th Annual Meeting Abstracts*, Volume 39, 2016, 199. (査読有) ISBN-10: 1931909334.

[学会発表](計 6 件)

長田年弘「パルテノン神殿西破風彫刻の解釈について」科研費「聖地オリュンピア - 戦闘行為の抑止への宗教および視覚芸術の関与」研究会 於早稲田大学文学研究科 2019年3月2日

長田年弘「趣旨説明」科研費「パルテノン彫刻研究 - オリент美術を背景とする再解釈の構築」第1回研究例会 於早稲田大学文学研究科 2018年4月27日

Toshihiro Osada: Die Darstellung der Asylie bei Kindern, Alten und Frauen in der athenischen Kunst aus dem 6. und 5. Jahrhundert v. Chr., in: 17. Österreichischer Archäologentag. Salzburg, 26. -28. Februar 2018. 2018年2月27日

長田年弘「パルテノン神殿装飾 - 古代ギリシャ彫刻と祭祀について」シンポジウム（「ギリシャ彫刻を考える - パルテノンの神々を中心に」）於四国霊場第三十一番札所五台山竹林寺書院 2017年9月16日（招待発表）

長田年弘「パルテノン・フリーズにおけるスポーツ競技の場面について」古代地中海世界における知の伝達の諸形態, 第一回全体研究会 於名古屋大学 2016年9月26日

長田年弘「神々への娯楽の提供 古典期ギリシア美術におけるスポーツ競技の表現について」古代世界研究会 2016年度 西洋古代史サマーセミナー 於東洋大学文学部 2016年

9月17日

〔図書〕(計 2 件)

長田年弘(編集)『2017 - 2019 年度 文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽研究 聖地オリュンピア - 戦闘行為の抑止への宗教および視覚芸術の関与』(16K13169)報告書』いなもと印刷, 2019年 全58頁

Toshihiro Osada (ed.), *The Parthenon Frieze. Ritual Communication between the Goddess and the Polis. Parthenon Project Japan 2011-2014*, Vienna: Phoibos Verlag, 2016. ISBN: 978-3-85161-124-3.

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究代表氏名 :

ローマ字氏名 :

所属研究機関名 :

部局名 :

職名 :

研究者番号(8桁):

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。